

地名探訪

高向

たこう

飛鳥時代に活躍「玄理の郷」

2014年にオープンした「くろまろの郷」のあたりが「高向」です。「たかむこ」「たくが」などの呼称もありましたが、現在は「たこう」で統一されています。平安時代の文献に登場している地名です。河内長野市では、玄理をモデルにしたマスコットの



高向玄理を顕彰する碑

「くろまろくん」を作成したり、市民講座を「くろまろ塾」と名付けたり、高向出身者として活用を図っています。幼い頃から、金剛山を超えて奈良まで知られた頭脳明晰。長く学び新しい国づくりを力を注ぎ、飛鳥時代に朝廷で重用された人物です。

その名にあやかっただ「くろまろの郷」は、「あすかてくるで」の道の駅として地域の活性化、交流拠点としてにぎわっています。市内や近郊で採れた農産物が並び、それらを使った惣菜・加工品がそろっています。地産地消野菜ピュッフェレストランも人気です。訪れた日には、バザール広場で「おそばやさん」などが開かれ、パン工房には

長い行列ができていました。

高向小学校区の「ひとまち ゆめ づくり会」(ひまゆ会)で、15年間の活動について、森光啓(もり・みつひろ)さんは、活動の柱の一つである児童見守り

縁起の良い白鳩を献上

隊は、ひとりひとりの隊員が登校する子供たちに付き添って学校まで送って行くきめ細かな配慮などを話してくれました。交通量の多い時間帯を安全安心とふれあいを大切に今朝も取り組んでいます。

はとはら(はとのはら)

鳩原



白鳩を献上した地として、自治会が掲げている大きな看板「ようこそ鳩原へ」

河内長野駅発のバスで観心寺の次の停留所が「鳩の原」。バス停から50メートルほど歩くと、「ようこそ鳩原へ」という大きな看板が目に見え込んできます。

バス停には「鳩の原」と「の」がはつきりと書かれています。地域では「鳩原自治会」と呼ぶように「の」を入れていません。市民も両方使っているよう

で定かではないようです。自治会長の西浦啓之さんが、由来について以前に調べたことがあるということ、キックスに同行してもらいました。1954年、大阪府から出版の「川上村史」に、西浦さんのサポートで、目的の記載を見つかることができました。

『続日本書紀』によると文武天皇3年3月に川上村から白鳩が献上され、これはめでたいと喜ばれた天皇が、1年間の免税と、徒罪以下の免罪を命じました。鳩原の地名は、この白鳩に由来すること、美しく、縁起の良い地名なので

「輝く」6号で取り上げた稚児相撲の神社が、この地にあります。もとは「鳩原神社」明治40年に近隣の合祀で「川上神社」となりました。今年も、10月第1日曜日には、元気な泣き声が響くことでしょう。

(取材・辻野 長夫) (編集・桑本 幸子)